

病理学

講 師	藤 田 修 一	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	疾患の治療や予防のためには、疾患の原因、発生機序および病態変化の理解が必要である。これらの病理学的特徴を理解するために、全身に起こる疾病の概念、病因と病態に関する基本的病理学的知識を修得する。				
授 業 概 要	下記の授業計画にある基本的な病理学的項目について講義を進める。教科書Part I 病理学の範囲である。病理学総論としての授業で、全身に共通して発生する基礎的な病態を解説する。これらの変化が全身のいろいろな臓器において、どのように疾患を作っていくか説明する。取り上げる疾患は一般によくみられるものである。歯科・口腔領域以外の疾患の知識を持つことは、将来、医療従事者として臨床現場でも役立つと思われる。また、病理学では病変の肉眼像や組織像(顕微鏡像)が重要な情報をもたらすので、授業では液晶プロジェクターを併用し、視覚的にも理解を深めるようにしたい。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験 100%				
教 科 書	田中昭男 他編 新・歯科衛生士教育マニュアル「病理学」 クインテッセンス出版				
履修上の注意	病理学を理解するにあたっては、解剖学、組織学、生理学等の基本的な知識が必要ですので、予習・復習には、他の科目の教科書も参考にしてください。不明な点は授業中または、授業終了後に質問してください。				
参 考 書	竹内 宏 他編「最新 病理学・口腔病理学」 医歯薬出版				
教員の職務経験 (科目との関連性)	長崎大学病院の病理組織診断、細胞診、病理解剖業務を行ってきた。この経験は本病理学の授業にも貢献できる。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBGs)
1	病理学概論、 病因論	① 病理学と病理診断を概説できる。 ④ 主因・副因を説明できる。 ② 病因を分類できる。 ③ 内因と外因について説明し、具体例を列举できる。
2	先天異常	① 遺伝子と染色体について概説できる。 ④ 奇形の分類と成因について概説できる。 ② 遺伝子異常による疾患と遺伝様式を説明できる。 ③ 染色体異常による疾患を説明できる。
3	循環障害 I	① 体液の循環について説明できる。 ④ 充血、うっ血、虚血の違いを説明できる。 ② 高血圧症を説明できる。 ⑤ 出血の種類、原因、転帰を説明できる。 ③ 一次性ショックと二次性ショックの違いを説明できる。
4	循環障害 II	① 血栓症・塞栓症の成立機序、転帰を説明できる。 ④ 水腫(浮腫)の原因、症状、転帰を説明できる。 ② 梗塞の種類、成因、転帰を概説できる。 ③ 側副循環と具体例を説明できる。
5	代謝障害 I	① 細胞・組織傷害(退行性病変)を概説できる。 ④ 変性に関連した代謝異常を列举できる。 ② 萎縮を説明し、具体例を列举できる。 ⑤ 壊死と壊疽、壊死とアポトーシスの違いを説明できる。 ③ 変性を分類し、説明できる。
6	代謝障害 II、 増殖と修復	① 肥大、増生、化生、再生を概説できる。 ④ 創傷の治癒過程を説明できる。 ② 肉芽組織とその構成成分を説明できる。 ⑤ 異物の処理(器質化を含む)を説明できる。 ③ 肉芽組織が関与する病変を列举できる。
7	炎症 I	① 炎症の定義を説明し、五大徴候を列举できる。 ④ 炎症の一般的な経時的変化を説明できる。 ② 炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 ③ 炎症のケミカルメディエータを説明できる。
8	炎症 II	① 炎症を分類できる。 ④ 肉芽腫性炎症の定義を述べ、代表的な肉芽腫性炎症を ② 変質性炎、滲出性炎、増殖性炎を説明できる。 列举できる。 ③ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の違いを説明できる。
9	免疫と 免疫異常	① 免疫の種類と免疫応答を説明できる。 ③ 自己免疫疾患を説明し、具体例を列举できる。 ② アレルギー反応を説明し、アレルギー性疾患を ④ 免疫不全症とその症状を説明できる。 分類できる。 ⑤ 移植免疫と拒絶反応を説明できる。
10	腫瘍	① 腫瘍の定義を説明できる。 ④ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる。 ② 腫瘍の病因と発生を概説できる。 ⑤ 腫瘍の分類の概念を説明できる。 ③ 腫瘍の局所での発育形式と転移を概説できる。